

日本企業 代表者各位
産学民・会員各位

(一社) PTKタイ国際交流経済機構
代表理事 田中 慶司
(押印省略)

SDGs 達成し持続可能な未来構築について(3)

記

標記の件、気候変動や水質源枯渇など環境問題、貧困や飢餓問題、ジェンダー(性)に基づく偏見や不平等の問題など、今なお世界は様々な課題を抱える。

1. 概要(総論2)

SDGs 達成に向け、各国政府や企業は様々な取り組みを始めている。

日本政府は16年5月に安倍晋三首相をトップに推進本部を設置。12月に実施指針を策定した。指針では「持続可能で強靱、そして誰一人取り残さない、経済、環境の総合的向上が実現された、未来への先駆者を目指す」とのビジョンを掲げた。

また、昨年12月には「SDGsアクションプラン2018」を策定。日本発の「SDGsモデル」を作ることで、企業や地方、社会を変革させ、さらにモデルの世界への展開で、日本経済の持続的な成長につなげるとの方針を明らかにした。

同プランでは、日本のSDGsモデル特色づける柱を3つあげる。

1本目は「SDGsと連動する『ソサエティ5・0』の推進」です。

ソサエティ5・0とは、16年の第5期科学技術本計画で打ち出された日本の国家ビジョンです。内閣府はこれを「仮想空間と現実空間を融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会」と定義する。

人類社会はこれまで狩猟、農耕、工業と移り変わっており、現在は4番目の情報社会にあります。そして今後、実現する第5の社会がソサエティ5・0だというのが、名の由来。

日本経済団体連合会(経団連)も、ソサエティ5・0を、日本の新たな成長モデルとして捉え、積極的な活用を図る。1991年に策定した「企業行動憲章」を経団連は改定。

ソサエティ5・0の実現を通じて、SDGsを達成するという視点を憲章に組み込んだ。

2本目が「SDGsを原動力とした地方創生、強靱かつ環境に優しい魅力的なまちづくり」である。この実現に向け、政府は自治体SDGsモデル事業を立ち上げている。

3本目が「SDGsの担い手としての次世代・女性のエンパワーメント」です。働き方改革や女性の活躍の推進で、SDGsを主導する人材育成が図られる。

続く(4)へ

仮称：日本地方創生振興機構 東京事務局(設立準備中)

※ご意見、ご要望等は✉ info@ptk-thai.or.jp